

## ミャンマー茶生産地域における中国市場拡大の影響

アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程 3年

内藤 真紀

ミャンマー

2017年8月18日～2017年8月29日

### 計画の概要

近年、中国経済の発展に伴い、隣国ミャンマーでは中国向け市場の拡大が著しい<sup>1)</sup>。特に中国と国境を接するシャン州では、中国へ陸路で新鮮な農産物を輸出できるため、これまで国内消費用に生産されていた農産物の輸出向けの作物への転換や、農地の拡大等が確認されている<sup>2)</sup>。また、中国での茶の需要拡大とともに、同州の主要な産業である茶生産も中国経済の大きな影響を受けている可能性があり、これらの影響は、衛星画像等を用いて地域の土地利用を概観した時にも、顕著に確認できると推察される。

本研究では、衛星画像とフィールドワークにより、主にミャンマーの茶生産地域における土地利用の変化をとらえ、中国市場拡大の影響について考察する。今回のフィールドワークでは、土地利用図を作成するために、調査対象地域における衛星画像分類または航空写真判読に必要な、グランドトゥールース・データ（農地や林などの対象物を現地で実測し、画像分類や写真判読の際に基準として使用するデータ）をミャンマー国シャン州東南部の6郡において取得する。

参考文献 1)：タンミンウー，秋元由紀訳「ビルマハイウェイ」，2013。

2)：翟亜蕾，藤田幸一，「ミャンマー・コーカン自治区における麻薬代替開発農村の社会経済変容・サトウキビ契約栽培導入のインパクトを中心に」，『アジア経済』，57巻1号，2016

### 成果

8月19日にシャン州カロー空港を出発し、約11日かけてYwangan郡，Pindaya郡，Nyaungshwe郡，Kalaw郡，Taunggyi郡，Thazi郡において、農作物の生産状況や搬出先についての聞き取り、農地や林でのGPSデータの取得（約130地点）や写真撮影（約800枚）等を実施した。シャン州東南部の農産物の多くが集荷されるKalaw郡Aungpanの、Aungpan Crop Trading CenterのTH氏への聞き取りによると、中国への主な輸出作物は

トウモロコシ、ターメリック、ダイズ、キマメ、サトウキビ、米であり、輸出量が増加傾向にあるのはトウモロコシ、茶についてはまだ国内需要が大半をしめるとのことである。茶産地である Ywangan 郡 YG 村における聞き取り調査によると、YG 村では飲用茶と食用茶が生産されるが、いずれも地域の市場に出荷されている。茶の価格は、飲用茶は安定しているが、食用茶は価格が上昇しており、YG 村では茶畑は拡張しているとのことである。一方、Kalaw 郡 YT 村での聞き取り調査では、茶の買い取価格が下がっており、茶畑をやめ、オレンジを育て始めた農家が多いという。今回のフィールドワークでは、茶については中国市場拡大の影響は大きくないものの、トウモロコシ等の農産物への影響は大きいことがわかった。また、同じシャン州でも地域により買取り価格に差があり、トウモロコシのような一年生農作物のみでなく、チャやオレンジなどの多年生農作物についても作付内容（土地利用）の変化が激しいことがわかった。これらの結果に留意しつつ、今回現地で取得したデータを用いて、今後土地利用変化の分析を進めたい。



トウモロコシ畑 (Nyaungshwe 郡)



茶畑 (Kalaw 郡)



Aungpan の市場 (Kalaw 郡)